情報通信審議会　情報通信技術分科会　ＩＴＵ部会（第１２回）議事録

１　日時

平成２９年１月２５日（水）１３時００分～１３時３０分

２　場所

総務省第３特別会議室（１１階）

３　出席者

（１）委員（５０音順、敬称略）

相田　仁、伊丹　誠、上條　由紀子、三瓶　政一

（２）専門委員（５０音順、敬称略）

今井　朝子、大寺　廣幸、加藤　修、上村　治、佐藤　孝平、芹沢　昌宏、
武田　幸子、丹　康雄、橋本　明、藤本　正代、前田　洋一

（３）オブザーバー（敬称略）

東　充宏（富士通）、岩田　秀行（ＮＴＴ）、深堀　道子（ＮＩＣＴ）

（４）総務省

武田大臣官房総括審議官

（５）事務局

中西通信規格課長、成瀬国際情報分析官　他

４　議事

（１）　部会長及び部会長代理選出

（２）　委員会構成員の指名について

（３）　2016年国際電気通信連合(ITU)世界電気通信標準化総会(WTSA-16)の結果

（４）　その他

開　　会

（中西通信規格課長）定刻前ですけれども、全員そろわれたので、これからＩＴＵ部会の第１２回会合を開催させていただきます。皆様、ご多忙のところお集まりいただきましてありがとうございました。本日は、情報通信審議会の委員が任期終了で、新規に就任していただいて初めての会合で、部会長がいない状態ですので、選出されるまでの間、私、通信規格課の中西が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いします。

まず、配布資料の確認でございます。本日、資料は簡単でございます。議事次第のほか、資料１２－１としまして、ＩＴＵ部会の名簿です。資料１２－２といたしまして、ＷＴＳＡ－１６の結果です。あと、参考資料といたしまして、情報通信審議会令等を置かせていただいております。不足がありましたら、お知らせください。

それでは、初めに、総務省大臣官房総括審議官の武田から、ご挨拶をさせていただきます。

（武田総括審議官）総括審議官の武田でございます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今、お話しましたように、委員の任期満了に伴う改選で、改選後初の会合でございます。皆様方、これまでも関わっていただいた方がほとんどの方と思いますが、何分にも情報通信は幅広い分野でございます。いろいろとご縁のある方々ばかりだと思っております。是非、引き続きよろしくお願いをいたします。

ご存じのことと思いますが、このＩＴＵ部会はＩＴＵに関する所掌でございます。「Ｒ」と「Ｔ」と２つございます。ちょうど去年は、このＩＴＵ－Ｔの電気通信標準化の４年に１度の総会がございました。これから始まる４年間の研究会期のいろいろな研究課題やら、あるいは勧告につきましても議論が行われました。その対処方針につきましては、この部会にお諮りしまして、答申をまとめていただいたところでございます。また、本日は、総会の結果報告がございます。標準化活動を通して、いろいろな意味で新しい市場をつくる、国際競争力を高める、もちろん利用者の観点はどうかといった課題がございます。

そういう中で、是非、皆様方のご専門の知見、あるいはさらに広い視野、大きな観点から、この場でいろいろご議論いただきたいと思っています。部会としての開催頻度はそう多くはないですが、いろいろと委員会から逐次ＩＴＵの状況などを共有し合いながらご議論いただいて、またこちらの部会にお諮りして議論を進めていくという、そういうスタイルかと思います。引き続き、忌憚のないご意見、ご議論をよろしくお願いしたいと思っ

ております。どうぞよろしくお願いいたします。

（中西通信規格課長）それでは、１月１３日に情報通信技術分科会におきまして、ＩＴＵ部会の構成員が決定されたところです。今回初めての会合ということで、一言ずつご挨拶いただければと思います。資料１２－１に名簿がありますので、名簿の順番にお願いできればと思います。それでは、相田委員から、よろしくお願いします。

（相田委員）東京大学の相田でございます。よろしくお願いいたします。

（中西通信規格課長）伊丹委員、お願いいたします。

（伊丹委員）東京理科大学の伊丹でございます。よろしくお願いいたします。

（中西通信規格課長）上條委員、お願いいたします。

（上條委員）金沢工業大学の上條でございます。よろしくお願いいたします。

（中西通信規格課長）三瓶委員、お願いいたします。

（三瓶委員）大阪大学の三瓶でございます。よろしくお願いします。

（中西通信規格課長）続いて今井専門委員、お願いいたします。

（今井専門委員）フリーランサーの今井と申します。よろしくお願いします。

（大寺専門委員）民放連の大寺でございます。よろしくお願いいたします。

（加藤専門委員）パナソニックの加藤と申します。どうぞよろしくお願いします。

（上村専門委員）ソフトバンクの上村でございます。よろしくお願いします。

（佐藤専門委員）電波産業会の佐藤でございます。よろしくお願いします。

（芹沢専門委員）ＮＥＣの芹沢と申します。よろしくお願いいたします。

（武田専門委員）日立製作所の武田と申します。よろしくお願いいたします。

（丹専門委員）北陸先端科学技術大学院大学の丹です。よろしくお願いいたします。

（橋本専門委員）ＮＴＴドコモの橋本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

（藤本専門委員）富士ゼロックスの藤本でございます。よろしくお願いいたします。

（前田専門委員）情報通信技術委員会、ＴＴＣの前田でございます。よろしくお願いします。

部会長及び部会長代理選出

（中西通信規格課長）　それでは、部会長の選任に移らせていただきます。お手元にございます情報通信審議会令第６条第３項の規定により、委員の互選により選任することになっております。従いまして、委員の皆様からご推薦をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（伊丹委員）相田委員を推薦いたします。

（中西通信規格課長）　ただいま、伊丹委員から相田委員を部会長にというご推薦がございましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

（中西通信規格課長）　それでは、ご異議もないようですので、委員の皆様の互選により、相田委員をＩＴＵ部会長に選任させていただきたいと思います。ここから先は、相田部会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

（相田部会長）ただいま、選出いただきました相田でございます。私は、ＩＴＵの中で一番関係が深いのは、ＩＴＵ－Ｔ、ＳＧ２の番号関係でございます。微力ながら務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

　それでは、続きまして、まず、部会長代理の指名を行いたいと思います。部会長代理につきましては、先ほどの情報通信審議会令第６条第５項の規定によりまして、部会長である私から指名することとなっております。

　私といたしましては、これまでもＩＴＵ部会、地上業務委員会等において審議に携われており、大変深いご見識をお持ちの大阪大学の三瓶委員にお願いしたいと思います。三瓶委員、よろしくお願いいたします。それでは、三瓶委員から一言、ご挨拶をいただけますでしょうか。

（三瓶部会長代理）大阪大学の三瓶でございます。ＩＴＵ関係、特に、私は地上業務委員会をずっと担当しておりまして、ＩＴＵ－Ｒのほうを主に関係してきました。少しでもお力になればということで、やりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員会構成員の指名について

（相田部会長）　それでは、続きまして、委員会構成員の指名を行いたいと思います。ＩＴＵ部会に属する委員会の構成員及び委員会の主査につきましては、情報通信審議会情報通信技術分科会決定第４３号第４項の規定により、ＩＴＵ部会長が指名することとなっておりますので、私から指名させていただきたいと思います。

それでは、各委員会の名簿を事務局から配布してくださるようお願いいたします。

配布が終わりましたら、事務局から今の名簿につきましてご紹介をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（中西通信規格課長）　ＩＴＵ部会に属する委員会ですが、前会期と同じ構成で考えております。それでは、各委員会の主査について、読み上げさせていただきます。

ＩＴＵの無線通信部門のうち、ＩＴＵ－ＲのＲＡＧとＳＧ１を担当します「周波数管理・作業計画委員会」の主査は、これまでに引き続きドコモＣＳの小林専門委員、ＳＧ３を担当します「電波伝搬委員会」の主査は、情報通信研究機構の石井専門委員、ＳＧ４とＳＧ７を担当します「衛星・科学業務委員会」の主査は、これまでに引き続き東北大学の加藤専門委員、ＳＧ５を担当します「地上業務委員会」の主査も引き続き大阪大学の三瓶委員、ＳＧ６を担当します「放送業務委員会」の主査も、引き続き名城大学の都竹専門委員にお願いしたいと考えております。

次に、ＩＴＵの電気通信標準化部門、ＩＴＵ－Ｔの全ＳＧとＴＳＡＧを担当する「電気通信システム委員会」につきましては、北陸先端科学技術大学院大学の丹専門委員にお願いしたいと考えております。各委員会の構成員については、お配りした名簿のとおりです。

（相田部会長）　ただいま、事務局からご説明いただいたとおり、主査及び構成員を指名させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

2016年国際電気通信連合(ITU)世界電気通信標準化総会(WTSA-16)の結果

（相田部会長）続きまして、議事の３番目になります。２０１６年国際電気通信連合世界電気通信標準化総会（ＷＴＳＡ－１６）の結果につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

（成瀬国際情報分析官）事務局の成瀬でございます。資料１２－２になります。ＷＴＳＡ－１６の結果について、ご報告させていただきます。

表紙をおめくりいただきまして、まず、この会合の概要です。ＷＴＳＡはＩＴＵ－Ｔにおける標準化活動の方向性を決める最高意思決定会議として，４年に１度開催されるものです。昨年の１０月２５日から１１月３日まで、チュニジア共和国で開催されました。参加者としましては、世界１３７の団体から約７００名が出席しました。我が国からは３２名出席いたしました。次のページの別紙１に、お名前を載せさせていただいております。対処につきましては、本部会で昨年９月２６日に開催しました際に、答申をいただきました。また、部会の審議事項以外の、非技術的事項につきましては、省内で対策部会を開きまして、審議させていただき、これらに基づき対処いたしました。

主な会合の結果でございます。最初が、次期研究会期の研究体制の承認、議長・副議長の任命です。こちらは研究委員会の存続については、廃止提案も欧米等から出ていましたが、日本が主張しておりました先の会期にございました１１ＳＧの存続が合意されまして、結果的に、全てのＳＧが存続するという形で結論が出ております。

また、議長、副議長としましては、我が国からは、ＳＧ３の議長及びＳＧ９の議長を２名出すことができました。また、副議長６名が任命されました。お名前を別紙２に載せさせていただいています。いろいろな国から推薦があったものですが、日本からは議長２名を出せたと、こちらは唯一複数の議長を出した国ということで、他の国からも日本の活動が認められたことかと思います。

次に、勧告の承認です。こちらは、料金・会計原則について研究をしているＳＧ３から５件の入力があったものです。こちらについて、国際問題というよりは国内の問題であってＩＴＵの勧告にふさわしいのかという疑義が欧米等から出ておりました。アフリカ・アラブ等からの支持は非常に強く、反対国は留保を出したのですが、採択されております。

続きまして、次期研究会期の研究の方向性等を決める決議の承認につきまして、まず１つ目、ＩＭＴ－２０２０です。こちらについて標準化活動を強化していこうという提

案を日本も含め、ＡＰＴ地域から出していたもが、合意されました。この中では、ＩＴＵ－Ｒ、無線の部門との切り分けや連携強化といったことも述べられております。

２つ目として、国際電気通信規則、ＩＴＲについての議論がございました。こちらは、ＩＴＲをレビューするかどうかを議論することが理事会で決まっていますが、ロシアやアラブ、アフリカ地域から、ＩＴＵ－Ｔでも検討する提案が出ていたものです。こちらにつきましては、理事会の所掌のことにまで入らない、既存の理事会の決議や全権の決議に沿わないことはしないことを注意して、対処しました。問題ない範囲まで抑えた形の表現に直して、合意することができております。

３つ目として、ＤＯＡ、Digital Object Architecture、こちら米印の２に書かせていただきましたが、いろいろな情報システムが混合しているシステムの間で、情報連携ができるようにする分散システムを提供するためのアーキテクチャでございます。こちらは、情報の単位にいろいろなオブジェクトとして、ＩＤとそのアクセス方法や属性を定めたメタデータを設定することができるようにするというアーキテクチャであります。こちらについて、このＩＤが偽造端末の対策やセキュリティの確保に有用であるとする、いろいろな決議の改定案が出てきておりました。特に、ロシア、アラブ、アフリカから出てきたものですが、ＤＯＡという、特定のシステム名をこのＩＴＵの場で扱うということについて、我が国を含め南北アメリカ、欧州から懸念を示したということで、非常に議論が紛糾しました。結果としましては、このアイデンティティのマネジメントは重要だと、一般化した声明を決議ではなくて議長報告に含めて、そこまでで抑えることで何とか治まったという状態になっております。こちらについて、技術的な検討は淡々とＩＴＵ－Ｔでやっていきます。特定の技術を決議で挙げることは、なるべく避けた結果になっております。

また、４つ目として、ＴＳＡＧの業務についての決議についても改定されました。２０１２年の、前々回のＷＴＳＡでは、ＩＴＵ－Ｔにおける将来の検討体制や、ほかの国際標準化機関等との連携を検討するために、レビュー委員会を設置したわけです。こちらの任務が完了したということで、レビュー委員会は終了しました。そのため、ＴＳＡＧがこの任務を継承して、引き続き、ＩＴＵ－Ｔの業務を改善していく検討を進めることを、ＴＳＡＧの業務に含める形で決議を改定しております。会合の結果は、以上になります。

（相田部会長）ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございますか。参考２の名簿を見ると、多いところでは、副議長が１３人いる

ところがあるのですが、特に形式的に人数の制限等はないのですか。

（成瀬国際情報分析官）特に、人数の制限はございません。副議長が多いということは、かねてから問題にもなっています。そのため、決議の中でも全ての副議長にきちんと任務を与えて働いてもらおうということ等が決められています。一方で役職を取らないとＩＴＵに出張ができないという事情を抱えているなど、いろいろな国がありまして、なかなか無碍にできないところもあるようです。

実際問題として、会合の期間中には、議長の１本化の調整に非常に時間を取られまして、副議長の調整にまで至らなかったという実態もございます。ということで、立候補した人がほとんど皆入っているという状態ではあります。

（今井専門委員）フリーランサーの今井です。１つ質問があります。今後、自動車やロボットの制御に、ＱｏＳはとても大事だと思うのですが、そのＳＧに日本の方が入っていないのは、何か理由があるのでしょうか。

（成瀬国際情報分析官）役職者としては入っていないかもしれないですが、ＳＧ会合には日本から出席しており、日本としても対処しています。また、地域バランスや、次の方がいるかどうかというタイミングの問題等もありまして、なかなか継続的に、必ず日本人が役職者に入っている状態はキープできない場合もありますが、重視して活動はしております。

（相田部会長）各ＳＧの中で個別の課題を担当するラポータなどは、どうですか。

（成瀬国際情報分析官）課題の担当するラポータやワーキングパーティの議長は、それぞれのＳＧの初会合で合意されることになっております。そちらの役職を取るのも、実質的な活動において重要となります。

（相田部会長）ラポータ等が出そろった辺りで、一度情報として、ご紹介いただきたい。

（相田部会長）他にいかがですか。

（上村専門委員）ソフトバンクの上村と申します。ＩＴＲの件で、２０１７年からＩＴＲをレビューすると、ＩＴＵ全権委員会議がということですが、今後はＩＴＲの改定機会というのは、ここに限られるということでしょうか。ＷＣＩＴはそこから外れるのか、それとも、両方その機会があるのか。

（成瀬国際情報分析官）今、理事会で設置されたは、改定が必要かどうかの検討を議論する場でして、改定することが決まったわけではございません。ＷＣＩＴを再度開催するなど、そういう議論も出る可能性もないとはいえない状態です。

（上村専門委員）わかりました。

（三瓶部会長代理）大阪大学の三瓶です。ＤＯＡの関係で、このidentity managementというのは、具体的にはどのような範囲になりますか。例えばＩｏＴなど、今後identity managementの範疇が広がります。

（成瀬国際情報分析官）特に、範囲を限定してはいません。

（三瓶部会長代理）いろいろなidentity managementで、要するに、扱う個数やあるいはセキュリティのレベルなどもあると思います。あとは、各個人に関するものというと、度合いというか、そのマネジメントをするシステムの強さや、いろいろその辺に違いが生じて、一概に一定のルールでというのが難しいような気もします。そういう議論は特になかったのですか。

（中西通信規格課長）今回の議論では、「ＤＯＡは万能である」という前提のロシア、アラブ、中国チームが「あらゆるものにＤＯＡを入れていきましょう」という雰囲気でした。建前上も、とてもスケーラブルなシステムだということを売りにしています。ただ、皆様もご存じのように、科学技術論文などで使っているＤＯＩ、ほとんどＤＯＡとサブセットのようなものなので、どこまでスケーラブルなのかは個人的には疑問です。会議の場としては、あらゆるものにＤＯＡを適用しようという雰囲気を感じました。

（相田部会長）前田専門委員どうぞ。

（前田専門委員）今、中西課長がおっしゃったので重複するかもしれません。この議論の背景はここにあるように、携帯も含めた偽造端末が、バンキングも含めて大きな問題になっているというのと、ＩｏＴ時代に対してどうするかということは、それを推進する決議の議論の中で、このidentity managementの課題が盛り込まれ、それに関して、既存のＤＯＩやＤＯＡとの関係が、どう扱うかが問題になったということです。

対象としてはもう全てをカバーし、数という意味では、ＩｏＴで言われているような５００億なり、それを超えるような端末でどうしたらいいかというのが、課題としては認識されているので、その方向を誰かがやらなければいけないということです。

スケーラブルかどうかは、ソリューションは別として、課題の背景にはそういう全てのものを含むということですので、日本として、今後それをどう扱うかという議論は、重要と認識するのがよろしいかと思います。

（相田部会長）他にいかがでございますか。よろしゅうございますか。

その他

（相田部会長）それでは、本日は初回の会合ということでもって、メンバー等を確定するのが主な議題であったかと思います。以上で用意された議題は済みましたが、何か構成員の皆様からございますか。あるいは、事務局から今後の予定等について、ございますか。

（成瀬国際情報分析官）次回の会合につきましては、今年の後半に部会長とご相談いたしまして、設定させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

閉　　会

（相田部会長）それでは、他にございませんようでしたら、本日の会合は、これで終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。